

東電発表「原発収束に6～9ヵ月」

東京電力は4月17日、事故収束への工程表を発表した。

工程表はステップ1，3ヶ月。 ステップ2，3～6ヶ月。

	原子炉	燃料プール	汚染対策
ステップ1 (3ヵ月)	<ul style="list-style-type: none"> 窒素注入で爆発防止 熱交換機能の回復 格納容器を水で満たす(1,3号機) 2号機の損傷部分の密閉 	<ul style="list-style-type: none"> 循環冷却システムの復旧 4号機建屋を耐震補強 	<ul style="list-style-type: none"> 汚染水保管場所の確保 水処理施設の設置 建屋を覆う施設設置に着手
ステップ2 (3～6ヵ月)	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じステップ1の対策を継続 格納容器を水で満たす(2号機) 冷温停止状態に 	<ul style="list-style-type: none"> 熱交換器の設置 遠隔操作による注水拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 汚染水の量全体を減少 建屋全体を覆う
中期	<ul style="list-style-type: none"> 腐食による破損防止 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の取り出し 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な処理施設設置

現在(6月)ステップ1,の工程が進行中だが、循環冷却システムの復旧が最大の目標で、「燃料の安定的な冷却」を掲げている。

汚染水を再利用する循環注水冷却する方式で、原子炉建屋 高濃度汚染水 浄化装置 仮設貯水タンクから再び原子炉圧力容器へと循環する総延長4^{km}の配管の環を繋ぎ、試験運転を始めたが、浄化装置はトラブル続き、配管からは水漏れが続き多難なスタートとなった。

